

保健医療サービス論			単位数	履修方法	配当学年
			2単位	R or SR	3年以上
科目コード	CD4075	担当教員	山本 邦男		



※この科目は、平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方は、履修することはできません。

※会場によりスクーリングを別教員（佐藤英仁先生）が担当いたします。

■科目の内容

「保健医療サービス論」は、社会福祉士受験科目「医学一般」を新たに再編したものです。したがって、本科目は、少子高齢化、疾病構造の変化等に伴う各種制度の改変とニーズの多様化に合わせ、改めて社会福祉士に必要な学習領域を示したものと理解できます。

本講義では「保健医療サービス」の基礎的知識とソーシャルワークの歴史やケースワークの技術、価値、多職種との連携等について学びます。主として、①保健医療サービスのシステム、②専門職の役割、③社会資源との連携、④保健医療分野のケースワーク理論等です。スクーリングでは、医療ソーシャルワーク、ケアマネジメントの実務事例にふれながら、わかりやすく解説します。

■到達目標

- 1) 保健医療サービスの構成要素や歴史、機関間連携とSWの役割を述べるができる。
- 2) 医療法や診療報酬、介護保険法における施設の機能や類型を説明できる。
- 3) 保健医療サービスにおけるMSWの歴史と業務内容を解説できる。
- 4) 保健医療サービスの関連専門職の業務内容やMSWの基本的姿勢を説明できる。
- 5) 保健医療サービスにおける各種社会資源（健康保険や高額療養費等）を解説できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス（第4版）』中央法規出版、2014年（第4版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 (第1章第1節、2節)	保健医療サービスを構成するひと・もの・かね等の構造理解 キーワード：国民皆保険、ステークホルダー、診療、介護報酬、QOL、コメディカル、医療費推移、出来高、包括払い	そもそも保健医療サービスとは何か、戦後の保健医療サービスの歩みを学習し考えてください。更に診療報酬、介護報酬の仕組みについて学んでください。
2	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 (第1章第3節、4節)	保健医療サービスと在宅医療と医療法改正 キーワード：医療法、在宅医療、医療連携とチーム医療、MSWの業務と医師の指示、疾病構造の変化と健康転換	保健医療サービスの根幹をなす医療法や関連施設と医療費の動向。疾病構造の変化と保健医療サービス課題、今後の重要政策在宅医療と連携重視の背景を学ぶ。
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム (第2章第1節、2節)	医療法による施設類型と機能。医療政策と施設機能類型 キーワード：病床、特定機能病院、地域医療支援病院、病院、診療所、政策医療、がん拠点病院	我が国の保健医療、介護の中心的役割を担う医療法とは何か。政策医療と中心機関、役割、医療施設機能と類型を知る。それぞれの施設の特徴を知る。
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム (第2章第3節)	医療保険診療における診療報酬の類型と介護保険法における施設の機能類型 キーワード：回復期リハビリ病棟、亜急性期入院病棟、緩和ケア病棟、在宅療養支援診療所	回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟、亜急性期、地域医療支援診療所などの概要、急性期から慢性期、地域の在宅医療を担う機関についてしっかり学習。
5	保健医療サービスを提供する施設とシステム (第2章第4節、5節)	医療法と介護保険法、在宅支援のシステムと包括ケア キーワード：介護保険施設、居宅サービス、地域密着型、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、地域包括ケアシステム	介護施設の特徴と概要、居宅サービスの種類と地域密着型サービスの概要、在宅支援システムと地域包括ケアシステムの必要性を学び医療と介護の連携を考えてください。
6	保健医療サービスにおけるMSWの役割 (第3章第1節、第2節)	MSWの歴史と仕事 キーワード：COS、アルマナー、キャボット、浅賀ふさ、MSWの業務指針、ミクロのソーシャルワーク、心理社会的問題、パートナーシップ、受診受療と医師の指示	MSWの歴史と仕事の内容について学んでください。個別的なミクロの支援やMSW業務の指針、受診受療援助について学んでください。
7	保健医療サービスにおけるMSWの役割 (第3章第3節、第4節)	ミクロからメゾ、メゾからマクロへのソーシャルワーク キーワード：退院援助、退院計画、退院支援計画書、平均在院日数、ハイ・ソーシャルリスク患者群、ジョブコーチ、クリティカルパス、社会復帰援助、地域連携パス、SWOT、モニタリング、アセスメント、ソーシャルアクション	MSWのメゾ、マクロに展開する支援と実際の関わりを考えてください。特に退院後の地域との連携や社会復帰援助について。一つの用語を大事にして概念を把握すること。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	保健医療サービスの専門職の役割 (第4章第1節、第2節)	専門職の実務の概要 キーワード：業務独占と名称独占、チームアプローチ、アセスメント、患者の権利、医師の職業倫理、インフォームドコンセント、コンプライアンス、セカンドオピニオン、アドバンスディレクティブ、プトウリム、アカウンタビリティ	専門職の仕事、お互いの役割、業務独占、名称独占とは。バターナリズム、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンについて医療と保健の重要キーワードを学習してください。
9	保健医療サービスの専門職の役割 (第4章第3節)	専門職の視点と役割の実際 キーワード：LIFEの3層と相補性、医行為、診療補助、療養の世話、パラメディカル、コメディカル	保健医療サービスにおいて各専門職はどのような視点で業務を遂行しているのか、特に医師や看護師、スタッフの役割を把握。
10	保健医療サービスの提供と経済的保障 (第5章第1節)	医療保険制度と診療報酬の概要 キーワード：被用者保険、地域保健、協会健保、組合健保、保険料、現物給付、高額療養費、出産手当、出産育児一時金、傷病手当、出来高、包括、点数、中医協、審査支払機関	医療保険制度の概要を知る。被用者と地域保険の違いや給付の内容、診療報酬の決定に関わる機関等具体的な知識を得ること。特にMSWの支援には欠かせない社会資源です。
11	保健医療サービスの提供と経済的保障 (第5章第2節、第3節)	介護保険制度と介護報酬、自立支援医療と公費負担制度 キーワード：第1号、第2号、特別徴収、普通徴収、要介護認定、居宅サービス、地域密着型、高額介護サービス費、単位、公費負担医療、自立支援医療	介護保険制度の概要を把握、MSWとして多く活用する社会資源です。個別のケースに介入する場合、信頼関係の基礎になります。いかに多くのメニューとネットワークを活用できるか知識を広げてください。
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 (第6章第1節、第2節)	保健医療サービスにおける連携の基礎知識 キーワード：多職種連携、チームワーキング、チームコンフリクト、コンピテンシー、パワー概念、タスク機能、モラル、障害者総合支援法、地域福祉計画、介護予防、介護施設、医師会	ヘルスケアと連携の意味を知る。多職種間における望ましい連携の在り方を考えてください。更に個人の能力（コンピテンシー）やパワーの概念は支援の大切なキーワードとなります。
13	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 (第6章第3節)	連携の実際、機関 キーワード：ケアシステムとチームケア、病院・施設・地域の連携と協働、クリティカルパス、バリエーション、がん末期のチームケア、エコマップ	各機関（行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター）連携とがん末期チームケアについて、医療から地域への流れが重要視される中での各キーワードについて学習。
14	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践 (第7章第1節)	ネットワーク構築の方法と基礎知識 キーワード：ネットワークの規定と原則、ペインコントロール、シームレスケア、ソーシャルアクション、オンブズパーソン制度、コンサルテーション	MSW業務領域の拡大に伴い、地域とのネットワークと多職種連携が重要、実践を前提にその知識と基本的な原則について学習してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携 (第7章第2節)	キーワード：長崎在宅 Dr ネット、がん医療地域ケアネットワーク、多職種連携、診診・病診連携	長崎在宅 Dr ネット、神奈川県医療通訳派遣システム、がん医療地域ケアネットワークにおける連携、目的、内容、留意点について実践から学ぶ。

■レポート課題

1 単位め	医療ソーシャルワーカーの業務内容についてミクロ、メゾ、マクロの各レベルにおける支援の必要性とMSWの留意点についてまとめなさい。
2 単位め	下記の用語について、1つ500字以上700字以内で解説してください。 ①クリティカルパス ②インフォームド・コンセント ③ネットワーク ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

■アドバイス

高齢社会をキーワードとして、保健医療サービスは激しく変化をしています。中でも社会福祉専門職（医療ソーシャルワーカー；以下MSW）への役割期待は、医療連携、ネットワークによる退院支援の重要性など年々高まりつつあります。その背景には、少子高齢社会や生活習慣病などにみられる疾病構造と社会福祉の構造改革による制度の変化などがあげられます。また、難病やターミナルケア、在宅医療など、従来の医療機関スタッフのみでは解決できない多様な問題の出現があります。

したがってMSWには医療から在宅、地域関係機関など、地域連携への関わりによる業務への対応が必要となっています。その背景については、教科書（p.20～32）をよく読み、理解を深めてください。

参考図書として『実践的医療ソーシャルワーク論』（改訂第2版）を推薦します。より詳細な医療福祉制度の流れとMSW業務の関連を学習してください。

1単位めは診療報酬改訂や介護保険制度創設に代表されるように、病院から在宅への医療政策によって、MSWの働く場と業務内容に大きな変化がみられます。教科書では、MSW業務の各レベルにおける支援の必要性をミクロ、メゾ、マクロに分け具体的事例によって解説しています。事例を参考にしながら、業務の展開について学習してください。

2単位めは、そのようなMSWの業務領域のキーワードについて学習してください。教科書の中には、「保健医療サービス」に関連する多くの専門用語が掲載されています。特に医療福祉制度改変により、在宅支援の重要性が増し、ネットワークや地域連携のキーワード共有化は日常の業務においても重要となります。いずれの課題も教科書をしっかり読み、その概念と意味を把握してください。教科書のみでは理解ができない用語については、他の参考書等で独自に学習してください。

1 単位め アドバイス

MSWの業務は受診、受療援助から退院支援、地域連携等によるサービスシステムの構築まで、広範囲に及ぶようになっていきます。教科書第3章（第4版p.76～113、第3版p.72～107）ではミクロ、メゾ、マクロにおけるMSWの業務を具体的事例通して解説しています。その内容は「医療ソーシャルワークの業務指針」（第4版p.80～83、第3版p.76～79）の6つの業務範囲を各レベルに分けて、病院から地域へのMSWの支援展開をわかりやすくまとめたもの

です。教科書第3章2節（第4版 p.87～96、第3版 p.81～90）では、ミクロレベルで経済的支援から受診・受療までの各支援業務について、同様に第3節（第4版 p.97～106、第3版 p.91～100）でメゾレベル、第4節（第4版 p.107～113、第3版 p.101～107）マクロレベルで各支援について触れています。

各レベルにおける支援の意味を体系的に理解してください。そして、これらの支援が何故必要とされるのか、そしてMSWが留意しなければならない姿勢、取り組み課題についてまとめてください。制限字数は2,000字ですので、簡潔に要点を述べてください。

2 単位め アドバイス

クリティカルパス（第4版 p.201～、第3版 p.185～）は地域医療連携の一つとして、多くの病院で採用され実践されています。インフォームド・コンセント（第4版 p.131～、第3版 p.124～）も生活習慣病における、主体的治療継続の重要性から注目されています。また、ネットワーク（第4版 p.214～、第3版 p.198～）は地域社会資源の活用と構築において重要なキーワードです。教科書で不明な点は独自で調べてみてください。

■科目修了試験 評価基準

科目終了試験問題は教科書から出題しています。教科書の重要キーワードに留意して丁寧に教科書を読んでください。特に「在宅医療と連携」「チームアプローチ」「介護保険制度」「医療保険制度」の概要、「MSWの業務内容」や用語の概念を丁寧に学習してください。

■参考図書

日本医療ソーシャルワーク研究会監修 村上須賀子・大垣京子編集『実践的医療ソーシャルワーク論（改訂第2版）—保健医療サービスを学ぶ』金原出版、2009年